

平成 27 年度 第 1 回 文化創造都市高岡推進懇話会 会議録

日 時：平成 27 年 10 月 23 日（金） 16：00～17：30

会 場：高岡市役所 802 会議室

出席者：【座 長】武山 良三

【委 員】川島 鋼、駒澤 義則、晒谷 和子、能作 克治、林口 砂里、村上 隆

【当 局】草壁部長、柴田課長

【事務局】新田主幹、中嶋主査

1 開 会

- ・座長あいさつ
- ・文化創造都市高岡推進懇話会設置の趣旨
- ・委員の紹介
- ・役員を選出

武山座長・新谷副座長を選出、承認された。

2 協議事項

(1)平成 27 年度 新たな芸術・文化創造推進事業の内容について

(2)平成 28 年度予算編成に向けた推進事業の提案について

事務局： — 資料説明 —

委 員： 内容を拝見すると、ものづくりに関する内容が多くを占めているが、可西舞踊研究所など市内で積極的な取り組みをしている文化団体についてはどの様にしていくのか。

事務局： それらの方々についても何らかの事業として加えていければと考えている。文化創造都市高岡推進ビジョンでは、文化の第一線で活躍している方々と市民全体が関わる部分の両面からの取り組みについて示していることからその両面から構成していきたい。

委 員： それはターゲットが特定されているか不特定多数かということ。イベント等では、ターゲットを絞り戦略を持って進める。ターゲットを絞り込むことにより、分散型から集中型とし、予算の集中を図りより効果を上げる。イベント等の実施には、コーディネーターが求められる。

- 委員：平成28年度事業に限って言えば、情報発信だけに事業を絞ってもよい。WEBサイトの構築案はとても優れていると思うので、これ一本で進めてもいいと考える。
- 先般、越の工芸展が阪急百貨店であったが高岡はあまり目立っていなかった。もっと気を惹くようなメッセージがないといけない。
- 委員：WEBサイトは、イラストを使用し個性的に作成したいと考えているが、このイラストを職員の名刺などに入れてPRしたい。また、人気サイトにバナーを掲載するなど、広告費をかけてでもPRしていく必要があると思っている。今、動画はとも人気が高く、話題となるような動画を制作することで強いPR力を持つことができるとも考えている。
- 委員：年間を通じた仕掛け、高岡のすごいところをどう伝えるかということが大切である。そういう意味でこのWEBサイトは優れており、ある程度プライドを捨てたPRの気概が必要である。
- 委員：新幹線が通って高岡のチャンスが高まっている。金沢への観光ニーズがひと段落した時に、高岡の良さに気付く人が出てくると思う。
- 委員：金沢へ行った帰りに高岡に寄ったというお客さんが、金沢はなんでも値段が高いし、高岡のような素朴な良さがなくなっていると話されていた。
- 委員：市民が自ら高岡を知り、PRをしてほしい。色々なイベントをやっているけど市民が知らないことが多い。PRは高岡銅器だけでは不十分。WEBサイトではものづくりだけでなく、高岡の知られていない優れた一面についても触れてほしい。高岡には色々なものがあってまとまらないとは思いますが、市民に広く全体を見せるものが必要であろう。
- 委員：高岡の伝統産業の認知度向上についてはこれまでも務めてきた。全国的に、認知されるようになるとあたりまえのこととなり、新鮮味がなくなってしまう。今、全国伝統工芸品フェスタの事業に関わっているが、高岡にはやはりものづくりの底力があると感じる。だからこそこのような全国的なフェスタも招へいできるのだと思う。

委員： 高岡のものづくりについては市外には知られているものの、市内には知られていないと感じている。情報発信については、外部周知を促進することで、内部周知も進むのではないかと考えている。切り口を定めてそこから広げていくことが必要と思う。

委員： 高岡の優れた部分を認知してもらう必要がある。良い点を投票して景品をプレゼントするなどなんらかの取り組みも必要か。

委員： 高岡は人口減少の歯止めがかからない状態にあり、それを止めるには何かが必要である。その一つの案としてドラえもん大仏を考えている。資産では建設費 10 億円程かかるが、クラウドファンディングなどを活用することも考えられる。藤子プロの理解を得られるかどうかが一番問題だが実現すれば絶対に高岡は賑わうだろう。

また、この大仏を富山市にも置いて、呉西と呉東の意識差をなくしたいとも考えている。ものづくりデザイン科の取り組みは次第に成果がでてきていることを肌で感じている。授業を受けた生徒が当社に就職したい希望を出してきている。

委員： クラウドファンディングの活用ということ言えば、瑞龍寺再興事業のときは、瓦に一口千円で参加を募り、募金者の名前が入った。自分も参加したが、今でも誇りになっている。

座長： これまでの意見から、やはり「知る」という取り組みが大切であり、このことについては懇話会の当初から言われていることでもあった。

WEBの発信では文化創造事業だけでなく、幅広い情報を扱ってもらいたい。WEBサイトがつなぎ手に徹することで、縦の壁をとりはずし色々なものを共有できるものにしてもらいたい。また、サイトでは英語や中国語版も必要。

懇話会の要綱には、文化・産業を創造するとあるが、直接的には見えてこなくても、次第に醸し出されてくるものがあるはずであり、それが本物であるとする。高岡のものづくりについてはメディアでも数多くPRされており、それが世間に浸透してきている。あと少しのディレクションが必要と思う。

また、さまざまな文化事業やイベントの招待制度のようなものもつけれないかと考えている。お茶会など高岡ではたくさん開催されているが、そこへ行ってみようというところまでは繋がっていない。そのために何かの工夫が必要と思う。

繰り返しになるが、あらためて「知る」ということを考えていく必要があると思う。委員のみなさんには高岡の情報大使として、今後ともご協力頂きたい。

3 その他 今後のスケジュールについて説明

4 閉 会

以上